

## 水素社会の実現に向けた東京戦略会議（第4回） 議事録（概要）

- 1 外部委員がプレゼンテーションを行い、その後、水素社会の実現に向けた取り組みの方向性について、自由討議が行われた。
- 2 委員からの主な意見は次のとおり。
  - ・2020年の東京オリンピックでの燃料電池バスの活用などの環境を、都民を巻き込んだ都民参加型で整備して、持続可能な社会をともにつくっていくという共創意識を醸成することが大事であるとする。
  - ・東京オリンピック・パラリンピックが一つの契機になると思われるが、ショーケースだけで終わらせずに、都民に対する政策やメッセージを取り組みの方向性にいれてはいかかがか。
  - ・プレゼンテーション中の提言で、環境学習拠点やNGO、事業者が連携して東京オリンピックサステナビリティ応援団として、水素チームをつくるというはよいアイデアだと考える。
  - ・東京都がオリンピック・パラリンピックで（水素エネルギーの活用を）計画するにあたり、北九州などで実施された住民との対話や交流などの経験は大事であると考え、このような事例を活かして推進するべきである。
  - ・東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に水素社会の実現に向けて、産業車両の燃料電池化を通じて、水素・燃料電池の初期普及に貢献できるのではと考えている。
  - ・東京オリンピック・パラリンピックに向けて、成功させるための目標設定は何であるか、あるいは東京都が水素において先進的であるという印象を与えるための目標値はどのようになるかなどをフォーカスした説明があるとよいと考える。
  - ・2020年軸に目標を置いているが、東京オリンピック・パラリンピック開催前に、インフラを完成させ、運用をしていなければならない。したがって、前倒しで推進する計画が必要であるとする。
  - ・2020年の水素ステーションと燃料電池自動車の導入目標数の関係は、水素ステーションが先行して整備している状態と考えられるため、先行する水素ステーション運営側に脱落者がでないように、十分に支援をしていただきたい。また、2020年の自動車台数目標を前倒し達成できるように様々な対策や知恵を絞り、努力をするべきである。
  - ・燃料電池自動車の目標台数について、チャレンジングな目標値ではあるが、水素ステーションの適切な配置、適切な水素の価格、あるいは東京都からのさまざまな政策など、関係者の協力がうまくかみ合えば不可能ではないと考える。
  - ・水素ステーション、燃料電池自動車を普及させるためには、できるだけ多くの水素ステーション設置候補地が必要になる。したがって、設置候補地を増やすには、規制の合理化が重要であると考えており、水素ステーションの規制緩和や技術基準の明確化について、一緒に国への提案を働きかけていきたい。

- ・GS や LP ガススタンドとの併設など既存のインフラを活用する水素ステーションは、既存の人件費で運用できるので、最もランニングコストが安くなると思う。
- ・水素ステーションの設置に関して、整備は容易でないため、促進するために支援をいただきたい。また、燃料電池バスに関して、東京都がどのように都バスに導入していくのかという点を明確にしていきたい。
- ・燃料電池バスは、燃料電池自動車に比べ水素ステーションも大型な設備が必要となり、インフラとの関係により、ルートが限定されるのではないかと考える。一方で、東京都の BRT 構想について、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、ある程度焦点を絞って動かないといけない。したがって、燃料電池バスと BRT との関係を明確にしていきたい。
- ・家庭用燃料電池について、都市ガスだけでなく LP ガスなど様々な燃料を含めて検討してはいかがか。また、業務用燃料電池については、発電効率が高く負荷追従性に優れた純水素型燃料電池の導入についても検討してはいかがか。
- ・東京都で燃料電池の台数を伸ばしていくには、新築集合住宅への対応が重要であると思う。新築集合住宅で省エネ集合住宅のスタンダード化を進める中で、コストダウンとダウンサイジングを進めることで、既築戸建て住宅向けの販売ポテンシャルも広がるため、支援策に落とし込む中で多面的な支援を検討していただきたい。
- ・水素・燃料電池関連の製品の量産を進める環境整備についても、都として取り組んでいただきたい。
- ・目標に向けて、順繰りに進める中でインフラとして活用性を見極めながら、着実な計画を組んでいただきたい。
- ・現在、主流の（定置型）燃料電池は、電気よりも熱を多く発生し、お湯が一杯になると運転を停止し、電気も止まる特性がある。したがって、エリア全体で電力融通するためには、前提として熱もお互いに融通するという点について検討したほうがよいと思う。
- ・安価、安定かつ安全な燃料供給システムの構築が必要であると考えている。特に、発電の分野や、水素ステーションに比べ安全対策や関連の規制の整備はこれから着手となり、適時適切な情報公開やリスク対策に関する話し合いが重要であると思う。
- ・水素発電は高コストであると想定される。そのため、CO<sub>2</sub> 削減に寄与するなどのメリットを見える化し、アピールして需要を創出する工夫をしていただきたい。